



# 私たちの アイデアが 札幌を変える

札幌に住む192万人の市民。

その一人一人に、新しいアイデアを生み出す力、  
「創造性」が備わっています。

そして、生み出されたアイデアは、  
私たちの心や暮らしをより豊かにする可能性を秘めています。

今回の特集は、そうした新しいアイデアを生かして  
活動しているデザイナー、クリエイター、  
大学生へインタビュー。

創作活動時の苦勞や喜びの声を通じて、  
アイデアが札幌のまちにもたらす影響を見ていきます。





さくま ようすけ  
佐久間 洋介さん

市も開催を支援している札幌コレクション2010に出品。その中で行われた、洋服のデザインの将来性を競う「ブランドオーディション」でグランプリを獲得した。現在は、企業の制服などのデザインのほか、ファッション情報誌の編集などに携わる。24歳。

# ファッションは 道を切り開く力を 秘めている

「札幌コレクションへの出品が転機だった」と佐久間さんは話す。専門学校卒業後、進路が見えずフリーターに。漠然と「デザインを仕事にしたい」と考えていた。そんな中、道内最大のファッションイベント「札幌コレクション」を見て「あの場で自分のデザインを披露したい」と強く思うようになる。その後はデザインに没頭し、翌年念願の出品を果たす。「手応えはあった」。結果は会心のグランプリ受賞。努力が実った瞬間だった。

アイデアを形にする秘訣は、「型にはまらず、今、好きなものを落とし込むこと」。未来的なものが好きな時は光沢のある生地、手の込んだものが好きな時は刺しゅうを使う、という具合だ。東京を中心に動くファッション業界。佐久間さんは、道外に目を向ける若者へ「札幌でデザインし、発信することも十分にできる」とメッセージを送る。その言葉には、アイデアの力を信じて道を切り開いた、佐久間さんの思いが込められていた。



佐久間さんがデザインした洋服。7,000人を超える来場者の目をくぎ付けにした

## 佐久間さんが生み出したもの

### 札幌コレクションに出品した洋服

テーマは「気だるい女の子」。肩の周りなどに細身に女性的なラインを出しつつ、腰周りなどを緩めに仕上げることで、男性向けの服のような“やぼったさ”が出るよう工夫している。



(左)「男性向けは、つい自分が着たいものを作ってしまうため、あえて女性向けの服のみデザインしている」と佐久間さん。  
(中)佐久間さんのデザイン画。1日1枚は必ず描くのだとか。  
(右)佐久間さんが編集に携わる情報誌「SCRIPT(スクリプト)」。市内の百貨店などで無料配布している。





日高さんと田邊さんが作ったベビーカーの試作品

開発のきっかけは、小さな子を持つ母親が大学に送った1通のメールだった。「冬道で使えるベビーカーはないでしょうか」。さまざまな機能を備えたベビーカーが売られている中、冬道に対応したものはなかったのだ。

こうした要望を形にしよう。講義での呼び掛けから、日高さん、田邊さんから学生たちは、それぞれのアイデアを盛り込んだベビーカーを試作することになる。「自分がお母さんになった気持ちでアイデアを出しました」。日高さんは、

段差を楽に越えられる足踏み装置や赤ちゃんの防寒フードを、田邊さんは、安定感を高めつつ母親の進路を踏み固める3つのローラーを発案。母親との意見交換会や実験を重ね、約2カ月かけて試作品を完成させた。

既成の枠にとらわれない学生のアイデアに企業も注目している。しかし、経費面から「製品化に結び付くことは本当に稀」と日高さん。こうしたアイデアの種が次々と製品に生かされる、そんな日を夢見て、学生たちの奮闘は続く。

## 雪国ならではの発想。 冬道でも安心して使える ベビーカー

日高さん・田邊さんが生み出したもの

### 雪道でも安心して 走行できる ベビーカー

雪道の段差への対応や赤ちゃんの寒さ対策など、使う人のことを考えた工夫を凝らしている。実物大の試作品を製作した段階で2人の研究は終了。商品化には至っていないが、大学での研究は継続している。



札幌市立大学デザイン学部  
日高 麻里さん、田邊 優さん

生活者の視点で、より使いやすく、魅力的な製品の企画などを学ぶ「製品デザインコース」に所属する大学生。講義で雪国ならではのベビーカーについて研究。平成23年6月には日本デザイン学会に出場した。



(左) 実際にベビーカーを使用しているお母さんから意見を聞き、製作に生かした。  
(右) 日高さんのベビーカー。足で踏むと前輪が上がる仕組みになっている。



札幌市立大学デザイン学部ホームページ [www.scu.ac.jp/design](http://www.scu.ac.jp/design)

## アイデアには、まちを豊かにする力がある

今回は、アイデアが磨かれ、私たちの心や暮らしを豊かにする力になっていく事例を紹介しました。札幌に住む192万人の市民の誰もが、こうしたアイデアを生み出す可能性を秘めています。そして、札幌には芸術や音楽に触れられる施設やイベントなど、人々の感性を刺激する、さまざまな環境が整っています。市は、ここで生まれたアイデアを大切に、より魅力あふれるまちを目指す「創造都市さっぽろ」の取り組みを進め、創造的な活動を応援していきます。皆さんも人々が生み出すアイデアに積極的に触れるとともに、そこで得られた発想を普段の生活に活かしてみませんか？